

宏はこう考える！ ～根戸城址での墓地開発について～

柏市との市境に位置する根戸城址付近にて、今、墓地開発が行われようとしています。この土地は平成16年11月16日、サッカーグラウンドとして農地転用された土地であります。そして、その直後に墓地の開発が申請されるという、いわく因縁のある土地でもあります。それを受けた農業委員会は平成17年4月26日、「サッカーグラウンドとして継続使用することの申し入れ」を強く文書で通知をしたことは言うまでもありません。

また、今年9月の決算委員会の答弁で明らかになったように、18年度も継続的に墓地としての開発について、問い合わせが頻繁にされていた事実も明らかになりました。そもそも墓地にするための農地転用だったのではないかという強い疑念が残っています。農業委員会の申し入れが今日まで、全く無視されていることも大きな問題だと私は思っています。

一方、我孫子市は今年7月、手賀沼のほりにある文化・歴史・自然環境に関わる地区をネットワーク化し、多くの市民が我孫子の豊かさを実感できる空間をつくり、そして我孫子の魅力を向上させる計画として「手賀沼文化拠点整備計画」を策定しました。この計画では、根戸城址を中心に歴史公園として整備することになっています。我孫子市の「緑の基本計画」でも同様な位置づけをされており、交流の促進や地域活性化に寄与する地区として重要な位置づけを持った地区となっています。

このような状況の中で、市は墓地の開発を単純に認めるのではなく、如何にしてこの地区を保全していくのかを第一に考え、知恵を絞り、様々な手段を講じながら、まちづくりを進めていく必要があると私は思っています。

この墓地開発は根戸城址周辺の保全もさることながら、農地転用の問題や取り付け道路の確保、埋蔵文化財の発掘調査、厚生労働省のガイドラインによる土地所有の問題など、まだ不確かな部分や調整をしなければならない課題が多く残っています。現時点で事前協議を終えられる段階ではないと私は考えます。

また、既に周辺住民の方や手賀沼トラスト・我孫子の文化を守る会、我孫子の景観を育てる会などからも市へ要望書が出され、12月議会では請願、陳情も提出されています。内外の市民の関心も極めて高くなっている墓地問題です。

厚生労働省のガイドラインでは、墓地経営の許可について「許可しないことができる」のであって、行政の広範囲な裁量に委ねられるとされています。いわゆる開発行為のような「許可しなければならない」とは異なることを市は十分に考慮しながら、行政指導に当たるべきと考えます。繰り返しますが農地転用問題、取り付け道路、土地所有の問題など、行政の広範囲な裁量の範疇に入る問題も多くあります。このような問題がある中で、仮にこの墓地計画を現段階で許可すればそれは、我孫子市として墓地開発を誘導したことにつながると考えます。慎重が故にも慎重を期して事前審査を行うことを強く要望するものであります。



宏と語る小さな小さな
ティーパーティー開催中！
お気軽にお電話下さい。

行政相談もこちらへ！
ご意見をお待ちしています。

いんなみ ひろし
印南 宏
後援会事務局 7184-2860
自宅 7189-1598
我孫子市布佐平和台7-1-18
ブログ <http://hiroshi4649.at.webry.info/>
E-mail innami@mqd.biglobe.ne.jp

ほっと

Communication

印南 宏後援会 会報
2007.12.25 No.36

ゆく年 くる年

私たちの街、我孫子市はご存知の通り、今年1月に市長選挙が行なわれ、新たに星野市長が誕生しました。また、11月の市議選では定数28名に対し39名が立候補する中、現職4名が落選、新人6名が当選するなど、政治的にも大きな転換期を迎えています。

我孫子市をめぐる周辺環境も今、大きく変化しています。平成15年2月、我孫子市は近隣市と合併をせずに独自のまちづくりを推進することを決めました。現在、少子高齢化が本格化して住民からの税収規模が小さくなる中、我孫子の周辺の街ではそれらに対応した変化が起きている。例えば、お隣の柏市は沼南町を吸収合併し来年4月には中核市に移行しますし、平成17年8月に開業したTXつくばエクスプレスにより沿線の開発は急ピッチに進んでいます。

また、当市の南に位置する印西市は千葉ニュータウンを中心に成田新高速鉄道、北総線沿線に大規模店舗が次々とオープンするとともに、2年半後には東京都心と成田国際空港を最速30分台で結ぶ成田新高速鉄道の全線開通予定となるなど利便性がますます高まっています。

その一方で、それらの中間に位置している当市は、これからの税収財源として期待されるべき商業、工業とも大変厳しい状況にあるのが現実の姿となっています。

今後、私たちの街は市民サービスを低下させずに持続可能な財政運営をいかに構築していくのが重要な課題となってきます。そのために、事業の選択についても「あれも、これも」から、「あれか、これか」の厳しい選択を余儀なくされています。そのために、事業選択をどう進めていくのか、また、団塊の世代の多くが定年を迎えて地域に戻ってきた時に、このシルバー世代の貴重な人材資源をどう市政とまちづくりに活かしていくのか、星野市長のリーダーシップと私たち市議会の責任が強く求められているものと思っています。

新たな議員任期(12/1～)がスタートしました。今期(4年間)も議会終了のたびに、本誌「ほっとコミ号」の発行、市内各駅にて議会報告、宏と語る小さな小さなティーパーティー(懇談会)等を積極的に行ってまいります。引き続きのご指導とご支援をお願い申し上げます。



『住んでよかった』そして『住んでみたい』と言われる街に

12月定例市議会終了!

11月の市議選で選任された新議員による初めての議会、12月議会が終了いたしました。12月議会は12月6日から21日まで16日間開催されました。議案は障害者外出支援事業費、生活習慣病検診費など3億300万円を追加する一般会計補正予算案や、市の機構改革を盛り込んだ行政組織条例改正案など20議案を可決、閉会しました。

正副議長の選任

市議会初日に正副議長選挙を行い、我孫子市議会初の女性議長が誕生しました。議長に宮本慈子氏(49歳・市政クラブ)、副議長に沢田愛子氏(60歳・公明党)が選任されました。なお、議長選挙では有効投票数28票中、2票が共産党の議長候補、残り26票中13票ずつを宮本候補と坂巻候補で分け、最終的に、地方自治法118条の規定により「くじ引き」抽選で議長が選任されました。(坂巻宗男13票、宮本慈子13票、関口小夜子2票)

～ 主な争点 ～

12月議会の主な争点は

- 我孫子市と柏市の境界付近、根戸城址や遺跡のある場所に巻き起こった霊苑建設問題(北柏駅前手賀沼霊苑)請願の賛否
- 11月に発覚した市職員の不祥事について
- 新しい市議会の会派構成、正副議長選の行方 などでした。

根戸城址付近は我孫子市で唯一、我孫子の原風景が残されている場所です。また北柏駅に近く、便利の良い土地のため手賀沼沿いの根戸新田周辺は大手流通業者の進出の噂や今回の墓地建設の動きなど、頻りに大型開発の動きが起こる地区となっています。この地区の将来について今後、我孫子市はどのようなまちづくりをしていくのか、明確な方針を示し、我孫子市の発展につながる街づくりを行っていくことが重要になっています。

我孫子市議会 新たな会派構成 **全28名**

仁政会	秋谷代表 6名	／	緑政クラブ	川村代表 5名
公明党	沢田代表 4名	／	市政クラブ	宮本代表 3名
あびこ21	印南代表 3名			
※印南は教育福祉常任委員会に所属となりました。				
政策グループあびこ	内田代表 3名	／	日本共産党	関口代表 2名
無所属(豊島、海津)	2名			

＜12月定例市議会 印南 宏 個人質問 骨子＞

活力ある自立したまちづくり(市議選を終えて、市民ニーズにどう応えていくのか)に関する質問

- 1、我孫子駅西口改札の新設
- 2、歳入増の施策
- 3、地域活性化策(ハードとソフト)
- 4、さらなる広域行政の推進
- 5、成田線の利便化

根戸城址での墓地開発に関する質問

- 1、市の基本姿勢
- 2、説明会の開催
- 3、取り付け道路問題
- 4、埋蔵文化財の発掘
- 5、厚生労働省ガイドライン

職員の不祥事に関する質問

- 1、市長の姿勢
- 2、調査委員会
- 2、新たな人材育成制度の導入

◇お答えいたします(市議選時にいただいたご意見より抜粋)◇

質問:どうなっている成田線(我孫子～成田間)の増発、複線化問題

宏: 平成5年をピークに成田線利用者が激減方向にあります。利用者が減少傾向の中ではJR千葉支社は複線化の予定はありません。新たな設備予算は凍結している。成田線の増発は平成2年3月のダイヤ改正以降、現在まで行われていません。成田線複線化促進期成会が、昨年調査した増発に向けた「成田線輸送改善調査計画」にある4案のうち、成田駅始発案(※)を中心に具体的な増発を進めるように要望しています。

今後、成田線複線化期成会に所属する自治体の中で、受益を受ける(利用者)住民の多い自治体の参加による新たな組織を来年早々に立ち上げ、各自治体の事業費負担割合なども決めて、JRへ来年5月を目途に具体的な提案する予定となっています。成田線の利便化は我孫子市の活力ある自立したまちづくりには欠かすことのできない重要な課題であり、あきらめることなく、今後も増発、利便化に向けて取り組んでいきます。

※成田駅に電車を滞留する線路を設置し、電車の増発を可能とする方法



質問:市民バス(愛称あびバス)のルートを広げて欲しい

宏: 平成17年3月、民間事業所送迎バス(10事業体)のご協力を得て、高齢者などの外出支援制度がスタートしました。あびバスは現在運行している「新木コース」に続き、平成18年1月から運行開始した「船戸・台田コース」、「栄・泉・並木コース」の3ルートが現在運行されています。ルートの選定は、①高齢者の多い地区、②既存の路線バスの通っていない地区を原則として優先度を判定してルートが決定され、市内各駅に接続するようになっています。

費用は年間バス1台、約1,000万円かかっています。今後、超高齢化社会に向けて市民バス(コミュニティバス)の必要性は年々高まっていくものと考えられます。平成22年に予定している市民バス運行指針の見直しの際、コース増、ルートの見直し、図書館やアピスタへの接続等も含めて強く要望していきます。

質問:安心して住み続けるための防犯対策を強化して欲しい

宏: 平成18年4月、我孫子市生活安全条例が施行されました。それに基づき平成19年6月我孫子市防犯計画(第1次、平成19年度～23年度、～犯罪のない安全で安心なまちづくり～)を作成。この計画を基に防犯対策を強化していきます。我孫子市の安全度を指標で表すと平成19年7月現在、大都市近郊で人口が10万人から20万人の市、102市中18位となっています。日本一安全で安心なまちの実現に向けた取り組みを市、市民、自治会等、事業者、関係機関、教育機関の適切な役割分担のもとに連携して取り組んでいきます。

♪ 是非、ご覧下さい!! ♪

◆印南宏が代表を務める

「あびこ21」ホームページ <http://abiko21.exblog.jp/>

◆我孫子市公式ホームページ

<http://www.city.abiko.chiba.jp/>